

プレス リリース - 2014年4月

院内感染で毎年1600万人の患者の命が奪われている。スイスのある医師がこの数字を半減させようと奮闘している。本書は、彼の軌跡を追った記念すべき一冊であり、WHOの「手指衛生の日」を記念してラージ・ドム出版社から2014年5月5日に発行される。

アルコール製剤による手指殺菌という単純な行為により、世界中で毎年800万人の患者の命が守られる。あなたや近親者の命も、アルコール製剤のお陰で救われているかもしれない。この行為は、ディディエ・ピッテ教授により体系化され、院内感染への闘いを画期的に変えた。

WHOとの連携により、ディディエ・ピッテ教授は2005年から手指衛生の世界的なキャンペーンを繰り広げており、現在では国際連合に加盟する194ヶ国のうち170ヶ国が参加している。

2007年、ディディエ・ピッテ教授は英国女王より大英帝国勲章（コマンダー）を授与された。今日、ノーベル平和賞候補として彼の名が挙げられている。

本書は7ヶ国語に翻訳され（フランス語、英語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、日本語、中国語）、WHO事務局長が序文を寄稿している。習慣、偏見、無知に対する世界各地での闘いを記した本書から、勇気と希望と平和の教訓が得られるだろう。

著者はFONDATION PHILANTHROPIA財団の傘下にあるCLEAN HANDS SAVE LIVES基金に著作権を譲渡する。本書をお買い上げいただいた売上金で、恵まれない国の医療従事者にアルコール製剤のボトルが贈られ、命を守ることができる。

プレス連絡先



スイス Christine Déonna - cbetrisey@bluewin.ch / +41 78 738 88 60

フランス Suzanne Jamet - sujamet@aol.com / +33 1 55 42 79 79

グローバル Séverine Hutin - severine.hutin@gmail.com / +41 79 342 48 69

<http://www.lagedhomme.com>



ティエリー・クルーゼ グローバルプロジェクト

いのおちを救う、手洗いを

序文 WHO事務局長 マーガレット・チャン
WHO特命大使 サー・リアム・ドナルドソン

多くの人が知らないうちに、あるイノベーションが毎日の暮らしに変化をもたらしている。アルコール製剤で手をこすると、病気にかかりにくくなる。

これは、ディディエ・ピッテ教授率いるジュネーブ大学病院チームが、アルコール製剤を全人類に捧げた物語だ。この画期的な製品は、特許に縛られないことが不可欠であった。

僻地の病院から製薬会社グループに至るまで、今では誰でもアルコール製剤を製造できるようになった。医療現場でのケアがより安全になり、命が守られている。

ディディエ・ピッテ教授が病院で繰り広げる冒険の旅と一緒にしてみよう。略奪の経済を平和の経済に変えていくという望みと共に、これまでとは別次元の人類愛が生まれてくる。

「WHOが支援を要請した際に、ディディエ・ピッテが快諾してくれたことは幸いであった。読みやすく書かれた本書が、多くの人の糧となることを祈ってやまない。」

WHO事務局長 マーガレット・チャン博士

著者：ティエリー・クルーゼ。プログラマー、エッセイスト、小説家。技術、政治、文学の交錯に関心を持つ。元ジャーナリスト。代表作にはネットワーク社会の到来を予告する『Le peuple des connecteurs』、デジタル社会のバーンアウト現象を描いた『J'ai débranché』、政治フィクション・テクノスリラー『La quatrième théorie』がある。

CleanHandsSaveLives.orgプロジェクトに参加して、命を救いましょう！

定価12 €(税込み)



www.lagedhomme.com



+ 著者について

1963年フランス生まれ。ブロガー、エッセイスト、小説家。自称コモニスト。略奪の経済や特許に対抗し、平和の経済および寄付を守護している。『いのちを救う、手洗いを』では、世界を変える影響力を持っているにもかかわらず無名の人物を紹介している。代表作にはネットワーク社会の到来を予告する『LE PEUPLE DES CONNECTEURS』、デジタル社会のバーンアウト現象を描いた『J'AI DÉBRANCHÉ』、政治フィクション・テクノスリラー『LA QUATRIÈME THÉORIE』がある。



新情報

<http://blog.tcrouzet.com/>

<https://twitter.com/crouzet>

+ 本書の主人公について

1957年にスイス・ジュネーブで生まれたディディエ・ピット教授は、ジュネーブ大学病院の医師で、専門分野は感染予防および患者安全。2005年以降、アルコール製剤による手指殺菌を臨床現場での国際標準とするため、WHOの世界的キャンペーンを展開している。ディディエ・ピット教授はインペリアル・カレッジ（ロンドン）、香港理工大学医療科学院（香港）、復旦大学上海医学院（上海）の名誉教授である。



最新情報

<https://twitter.com/DidierPittet>

http://en.wikipedia.org/wiki/Didier_Pittet

リンク

www.LeGesteQuiSauve.org - www.CleanHandsSaveLives.org

<http://www.who.int/gpsc/fr/> - <http://www.who.int/gpsc/en/>

+ 院内感染について

統計データ

院内感染とは、病院等で治療中に起きる病原菌への感染のことをいう。

世界中で毎日50万人以上が院内感染しており、約2～5万人が死亡している。

院内感染による死亡者数は、エイズ、マラリア、結核による死亡者を足した数よりも多い。

欧米の死因ランキングでは、第1位が脳梗塞で、院内感染は第2位を占めている。

米国では、院内感染による死亡者数は年間20万人。ボーイング747機が毎日墜落した場合の死亡者数に相当する。

フランスでは、毎年77万人が院内感染し、4万人が死亡している。

スイスでは、毎年推定7万人が感染し、2千人が死亡している。

代表的な出来事

1992年：ディディエ・ピット教授の調査の結果、患者への感染を避けるために医療従事者が水と石けんを使用して手指衛生を行った場合、手洗いを1時間に22～44回行わなければならないことが判明する。

1993年：ジュネーブ大学病院内で、水と石けんによる手洗いから擦式アルコール製剤による消毒方式に切り替える。アルコール製剤は、数秒で病原体の99.9%を破壊できる。

1995年：この新戦略で感染率および犠牲者数を約50%減らせることが証明される。

2000年：科学誌『ランセット』に臨床結果を発表する。

2005年：WHOが患者安全の世界的キャンペーンを開始する。アルコール製剤をベースとした戦略が世界的に展開される。

2006年：アルコール製剤の処方公開される。特許に縛られることなく、世界中のあらゆる国で、現地調達できる材料で、アルコール製剤が製造できるようになった。

今日、国際連合194加盟国のうち170ヶ国がこのキャンペーンに参加しており、世界人口の80%を網羅している。